

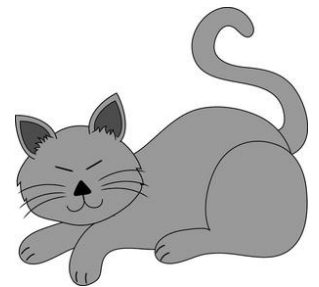
アフー・フライラさま (ラディヤッラーフ アンフ) のおはなし



よげんしゃさま (サッラーフ アライヒ ワッラム) についてのきろくは、たくさん
のこっていて、そのおかげで、わたしたちは、いまでも、よげんしゃさま
(サッラーフ アライヒ ワッラム) がどのようなおかただったか、くわしく、しる
ことができます。このような、よげんしゃさま (サッラーフ アライヒ ワッラム)
についてのきろくは、**ハディース**とよばれます。

このハディースに、たくさんなまえがでてくるのが、アフー・フライラさまのなまえです。なぜ
かというと、アフー・フライラさまは、よげんしゃさま (サッラーフ アライヒ ワッラム) のおっしやつ
たこと、されたことを、とてもこまかくおぼえてらっしゃったからです！

アフー・フライラさまは、もともとは、アブドゥッシャムスというなまえ
でしたが、のちに、ムスリムとなり、よげんしゃさま (サッラーフ アライヒ ワ
ッラム) とおあいしたときから、アブドゥッラフマーンというなまえにかえま
した。しかし、みなは、かれのことを「アフー・フライラ」とよびまし
た。フライラとは**こねこ**のことです。アフー・フライラさまはこねこがだ
いすきだったのです。



アフー・フライラさまは、ヒジュラれきワねんに、マディーナにうつられてからは、いつもぴつ
たり、よげんしゃさま (サッラーフ アライヒ ワッラム) のうしろについてらっしゃいました。アフー・
フライラさまは、いつも、アッラーへのかんしゃをわすれず、「**アルハムドゥリッラー**」といっ

ていました。かれは**ヤティーム** (孤児) で、おとうさんはいませんでしたが、おかあさんはいまし
た。このおかあさまは、さいしょはムスリムではなく、イスラームのことがだいきらいでした。
あるひ、このおかあさまが、よげんしゃさま (サッラーフ アライヒ ワッラム) についてのわるぐちをい
いました。よげんしゃさま (サッラーフ アライヒ ワッラム) のことが大すきだった、アフー・フライラ
さまは、それをきいて、ないいてしまいました。そして、よげんしゃさま (サッラーフ アライヒ ワッ
ラム) のところにいき、「わたしの母が、あなたについて、わたしのすきでないことをいいました」
とつたえると、よげんしゃさま (サッラーフ アライヒ ワッラム) は、そのばで、おかあさまのためにド
ウアーをしました。そして、アフー・フライラさまがいえへかえると、なんとおかあさまが水あ
びしており、そのあと、すぐにシャハーダし、ムスリムとなりました！スブハーナッラー！

ある日、モスクのなかでアフー・フライラさまがほかのサハーバさまた
ちとべんきようちゆうに、よげんしゃさま (サッラーフ アライヒ ワッラム) が
いらっしゃいました。そして、みなは、そこでひとりずつドウアーをし

ました。アフー・フライラさまは、「**わたしに、わすれない知しきをく
ださい**」とドウアーをしました。そして、よげんしゃさま (サッラーフ ア
ライヒ ワッラム) は、「アーミン！」とおっしゃいました。



あるとき、アプー・フライラさまは、ひとびとが市場しじょうでのかいものにむちゆうになっているのを見て、いいました。「よげんしゃモスクで、よげんしゃさま（サッラーフ アラヒ ワッラム）の遺産いさんがくばられていますよ！」それをきいて、ひとびとは、いそいでモスクにいきましたが、そこにはなにもありませんでした。ひとびとがもんくをいうと、アプー・フライラさまはいいました。「よげんしゃさま（サッラーフ アラヒ ワッラム）のちしきこそが、かれの遺産いさんです」

アプー・フライラさまは、マディーナのよげんしゃモスクの中庭なかにわにすんでらっしゃいました。ほかにもそのようなサハバさまたちがいて、かれらはアフルッスツファとよばれていました。たべものは、ひとびとのサダカでもらったものをたべており、つねにおなかをすかせたじょうたいで、おなかに石をまいているほどでした。ある日、アプー・フライラさまは、よげんしゃさま（サッラーフ アラヒ ワッラム）のいえにしようたいされました。いえには、ミルクがコップいっぱいあるのみでしたが、よげんしゃさま（サッラーフ アラヒ ワッラム）は、「アフルッスツファのひとたちを、みな、よんできなさい。」とおっしゃったので、みなをよんできました。すると、コップ1ぱいのミルクはみながのんでも、のんでもへらず、それをのんだひととは、みな、おなかがいっぱいになりました。これは、アッラーのきせきのひとつでした。



アプー・フライラさまは、はじめはますしかつたけれど、のちに知事ちじのしごとをまかされました。でも、アプー・フライラさまは、えらそうにすることはまったくなく、いつまでもけんきよなままでした。

もうすぐ、死しをむかえるというとき、アプー・フライラさまは、「いまからの旅立ちたびだに、荷もつに（善行ぜんこう）がすくない」といって、なみだされました。そんなかれののこしたハディースのかずは、1609とも、5374とも、いわれています！

☆どうでしたか？みんなが、おてほんにしたいとおもう、アプー・フライラさまのよいところをかんがえてみましょう！

おてほんにしたい、アプー・フライラさまのよいところ

なまえ：